

平成 27 年度 第 2 回尼崎市食育推進懇話会 議事録

日時	平成 28 年 1 月 18 日(月)午後 3 時～5 時
場所	尼崎市保健所 集団指導室
出席者	阿部委員、大久保委員、木下委員、佐藤委員、高谷委員、中川委員、中根委員、西村委員、前田委員、三浦委員、由田委員 (以上出席 11 名)
欠席者	石井委員、落井委員、小寺委員、中西委員 (以上欠席 4 名)
事務局 拡大事務局	保健部(福井部長) 健康増進課(森田課長、長谷川係長、岡本係長、坂本、辻野(記録)) 保育指導担当(代理 川島係長)、農政課(大脇課長)、学校教育課(代理 仁科指導主事)、学校保健課(田岡課長)
議事	1 課題への具体的な取組みについて ・第 1 回食育懇話会ご意見 ・「朝食を毎日食べるあまっ子を育てる」取組みの展開(案) 2 食育フォーラムについて 3 その他
資料	・平成 27 年度第 2 回尼崎市食育推進懇話会次第 ・平成 27 年度尼崎市食育推進懇話会委員名簿 資料 1:第 1 回食育懇話会ご意見 資料 2: 朝食の課題と生活リズム 生きる上の基本となる食育と「朝食」 資料 3:「朝食を毎日食べるあまっ子を育てる」取組みの展開(案) 資料 4:市民活動の広場あまがさき(HP) 資料 5:H27 食育フォーラム案 資料 6:評価指標 資料 7:ひょうご食育月間の取組み ・第 2 次尼崎市食育推進計画冊子(各自持参)

開会挨拶

事務局	只今より、第 2 回尼崎市食育推進懇話会を開会させていただきます。 皆様には、何かとご多忙のところ、ご出席を賜り、誠にありがとうございます。 開会にあたりまして、事務局、保健部部長、福井よりご挨拶をさせていただきます。
-----	---

事務局	保健部部長の福井でございます。よろしくお願いいたします。 委員の皆様におかれましては、ご多忙のところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。 本会は、「第2次尼崎市食育推進計画」に基づいて、本市における食育の施策を総合的かつ計画的に推進するために、専門的な見地及び市民の立場から幅広くご意見をいただくことを目的としております。 9月の第1回目の会議では、事務局からの提案として、「地域で子どもの食を支え、地域で食を伝える」を視点に、「朝食の欠食」という課題を優先的に取り上げ、委員の皆様には、「具体的にはどんなふうにすすめていけばよいか」、それぞれの立場からご意見をいただいたところです。 本日はさらに、これらの点を深めていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。 年も変わり、本市は10月に市政100周年の節目を迎えます。ただし従前から申し上げておりますように、財政的に厳しい行政運用を求められているということについては変わりありません。しかし、次の100年に向け、この計画を確実に推進していかなければならず、より知恵と工夫が必要と考えております。 そのようなことから、今後、計画の進行管理及び評価を行い、必要に応じて改善を行うなど、活発で、効果的な食育の推進を図るためにも、委員の皆様それぞれのお立場から、食育実践の輪が広がりますよう、引続きご意見とアイデアの提案をお願いしたいと思っております。
事務局	それでは、これからの議事進行を由田会長にお願いしたいと思います。 どうぞよろしくお願いいたします。
会長	由田でございます。よろしくお願いいたします。 議事に入らせていただく前に、まず資料の確認をしていただけますでしょうか。
事務局	配布資料の確認をさせていただきます。 ・平成27年度第2回尼崎市食育推進懇話会次第 （裏面）平成27年度尼崎市食育推進懇話会委員名簿 - 資料1：第1回食育懇話会ご意見 - 資料2： 朝食の課題と生活リズム - 生きる上の基本となる食育と「朝食」 - 資料3：「朝食を毎日食べるあまっ子を育てる」取組みの展開（案） - 資料4：市民活動の広場あまがさき（HP） - 資料5：H27 食育フォーラム案 - 資料6：評価指標 - 資料7：ひょうご食育月間の取組み そして、ご持参をお願いしておりました「第2次尼崎市食育推進計画」の冊子となっております。 以上です。
会長	それではさっそくではありますが、議事に入らせていただきます。 まず、1.課題への具体的な取組みについて、資料に基づきまして、事務局から説明をよろしくお願いいたします。

議題1 課題への具体的な取組みについて(資料1、2、3、4)

事務局	まず資料1第1回食育懇話会ご意見をご覧ください。 第1回目の会議においては、事務局より、「地域全体で子どもの食を支え、地域の中で食を伝える」という視点で、「朝食の役割」を生かした「食育情報発信」を継続的に行うことと、「食習慣の自立の時期である中高生」への取組みの充実を図ることの2つの取組みについて提案し、具体的に取組むにはどのようにすればいいか、委員の皆さまからご意見をいただいたところです。 議事録は皆様に送付させていただき、ご確認いただきましたが、整理したものが資料1になっております。 「朝食」については、「学力にも影響がある」、「家庭での食育が大事」、「『早寝早起き朝ごはん』のスローガンにあるよう、市内全小学校が大きな組織として取り組めば効果があるのではないか」というご意見がありました。 具体的にどんなふうに取り組めばいいかについては、「いろいろな機関との連携が大事」、「自分で自分の食事作りができることが大事。調理実習の機会がたくさんあるとよい」などご意見をいただきました。 こういったご意見を参考に、本来ならば、目標に向かって新たな施策を展開するという方法がインパクトもあるのですが、本市の厳しい財政状況においては、大変難しい状況にあります。 そこで、すでに本市の第2次食育推進計画に体系づけられた事業は既存事業の中でスタートしております。その既存事業の工夫や、コラボ、人のつながりなどを通して、目標に向かって一歩前進した取組みをと考えておりますので、皆さまからのご意見をいただきたいと思っております。 続いて、資料2の をご覧ください。 具体的な取組み展開に入る前に、再度、課題としている朝食の実態やそれを優先的に取り上げて具体的に取組む理由について説明させていただきます。 国の示す食育基本法においても、「食育とは生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきもので、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践できる人を育てること」とあります。 これをもって、本市の第2次食育推進計画においては、基本理念を「みんなの『いただきます』『ごちそうさま』が 人をはぐくむ あまがさきをはぐくむ ～食ではぐくむ笑顔あふれるまち」とし、3つの目標「食を通じて豊かな心をはぐくむ」、「食を通じて健康な体をつくる」、「食の大切さを次世代に伝える」を掲げ、体の成長のために栄養を取り入れるだけではなく、作ってくれた人への感謝、食べることの喜びや楽しみを感じる、豊かな人間性を育てる食育を推進すると定めております。 続いて、資料2の をご覧ください。 具体的に本市の朝食の実態はどうかといいますと、 【スライド1枚目】本市の子どもの朝食の欠食率は、幼児、小学生、中学生、高校生と年齢があがるにつれて高くなり、小学生・中学生においては全国よりも高い結果です。 【スライド2枚目】成人の欠食率は、男女で差があるものの、若い世代で多く、特に30代男性では27%が朝食を食べる習慣が全くないと答えています。食べない理由としては、「時間がない」、「食欲がない」が最も多いです。夜型の生活習慣の傾向があるため、朝は余裕がなく、朝食を食べていても、調理しない簡単なもの、菓子パン等が多いという現状です。 【スライド3枚目】幼児では、乳幼児健診、1歳6ヶ月・3歳児健診の問診結果から、朝昼夕の3食、おやつを含めた食事時間、起床・就寝時間が決まっている幼児はよく食べ、逆にそれら
-----	--

	が決まっていない幼児は少食・偏食・むら食が多い傾向にあるという実態が伺えます。 【スライド4枚目】小学生・中学生では、朝食をあまり食べない層に比べ、食べる層の方が、起床時間・就寝時間がともに早い傾向にあります。 H27 年度の全国学力・学習実態調査においても、携帯電話、スマホ、ゲーム、テレビ等の長時間の使用は、学習にも影響があることが示されております。 こうした実態がありますが、 【スライド5枚目】朝食の役割には、「体内時計をリセットし、生活リズムを整える」、「体温を上げて体を目覚めさせ、活動を活発にする」、「脳と身体にエネルギーを補給する」ことがあり、これらは、活動意欲、学力向上、栄養バランスを整えることなどにつながります。 【スライド6枚目】このように、「毎日朝食を食べる」という生活習慣は、健全な食生活の実践となり、豊かな心をはぐくみ、健康な体をつくり、食の大切さを伝えるといった知育・徳育・体育の基礎となる生きる力となり、豊かな生活の実現につながると考えます。食でそうした人を育むことが、「健康・安全・安心を実感できるまちづくり」にもつながっていくと考えています。 以上が課題解決に向けて優先的に「朝食」を取り上げ、取り組み展開を図る理由です。
会長	ここまでの事務局からの説明に関しまして、委員の皆様方、何かご質問、ご意見等ございましたでしょうか。 では、私から一点、確認させていただきます。 資料2の の1枚目のスライドの、「子どもの年齢が上がる毎に朝食の欠食率が高い」というデータはどのようなところから出していただいたデータでしょうか。
事務局	平成26年度に第1次計画を評価するために行った市民アンケートの結果です。
会長	ということは、このデータは市内の小学生、中学生、高校生に対してアンケート調査を行った結果ということですか。 これは悉皆調査でしょうか。それとも、一部の学校を選んでアンケートをとったのでしょうか。
事務局	選んでおります。 幼児については保育所、幼稚園に通う5歳児の保護者、小・中学校は南部、北部に分けて、高校についても人口構成等を考慮して保育所、幼稚園、学校を選定し、アンケートに協力いただいた結果をグラフにあらわしています。
会長	資料2の の2枚目のスライドのグラフでは、各年代の朝食の欠食率を示していますが、これも同様にアンケート調査でしょうか。
事務局	こちらは無作為抽出により選ばれた市民の中でアンケートに協力いただいた結果をまとめたものになっています。
会長	この「欠食」というあらわし方は、全く何も飲み食いをしないということですか。完全な欠食という考えでよろしいですか。
事務局	ほとんど食べる習慣がないということです。
会長	わかりました。
事務局	アンケート調査につきましては、第2次尼崎市食育推進計画の冊子7ページに調査対象、方法等を記載しておりますのでご参照ください。
会長	他、委員の先生方、ご質問等よろしいでしょうか。 では、ここまでのところをご理解いただけたということで、引続き、資料3に関して、事務局から説明をお願いいたします。

事務局	「朝食を毎日食べるあまっ子を育てる」取組みの展開(案)について、資料3をご覧ください。 先ほどの説明でもありましたように、新規の施策のご提案ではなく、これまでの既存の取組みをもとに、～今ある地域資源をつなげることで、「望ましい食を選択し、調理実践する場」が広がる仕組みづくり～として、「朝食」を切り口とした3つの取組み案を示し、それぞれの委員の皆様の活動とコラボや工夫ができること等のご意見を頂戴したいと思いますので、よろしくお願いいたします。 まず、ねらいは「食事作り」にポイントを絞り、「子ども自身が料理をする場(機会)」を増やすことで、朝食を毎日食べるあまっ子が増える」こととしました。 ライフステージの特徴に示すように、食習慣が自立する時期である「中学生・高校生」へとつなげる意味においても、その1つ前の段階である「小学生」も含めた「小学生・中学生・高校生」を対象とし、「めざす姿」として、朝食の欠食が始まる青年期までに、子どもが育つ過程で五感を育む「料理体験」を積み重ねることで、「自分の体に必要な食事を選んで食べる、作れる」ように取組むこととしました。 縦軸に取組み内容の分類を示しております。「作る」、「選ぶ」、「伝える」の3つに分類し、それぞれの取組みのイメージを既存事業の一部ではありますが例として挙げています。 そのなかで、「作る」取組みが地域で広がっていくよう、「人(人材、活動グループ)」、「物(材料、農産物、ノウハウ)」、「場所(機会)」と分類し、それらをつなげることで展開できる「食事作り」の取組み事例として と示しております。 小学生を対象とした「こどもクラブ」を中心とした取組み 「こどもクラブ」は、子どもたちにとって安心して遊べる場、異年齢が交流する場として市内全小学校にあり、平日の放課後や土曜日・長期休業日に子どもたちが自主的に参加できる場です。地域の方や保護者の方にも入っていただき、様々な協働の取組みをされています。 食事づくりに関する例として、少ない現状ではありますが、資料の「人」のところにあげている、子ども会や母親クラブなど既存の地域グループと関わることにより、もちつきや茶話会などを行っているこどもクラブもあるようです。ただ、全てのこどもクラブで実施しているというような状況ではないそうです。 例えば、「こどもクラブ」を活動の場としたとすると、 にあげているように「朝食」をテーマにした、火を使わなくても簡単に子どもができるクッキングを実施するという取組みができないかと考えています。 健康増進課としては、資料の「人材」のところにあげている、「食育サポーターの会」や「すみれ会」がこれまでのノウハウをつなげていくことができると考えていますが、他に委員の皆様のなかで、これまで実践している取組みや、小学生を対象にしている活動、もしくは活動の中で収穫できた農作物など、「人」や「物」をつなげて「朝食作り」を一体化してみせることはできないでしょうか。 小学生の次のライフステージである、中学・高校における部活動等を中心とした取組み 「作る」の中学生の欄に行政の既存事業として、「食育推進講座(弁当づくり実習)」がありますが、以前3年間で全19校に実施した際は、部活動で参加を希望した学校や保健委員会の活動で参加を希望した学校が多くみられました。 高校では昨年度、稲園高校で保健委員会の活動を通じて、今年度は双星高校で野球部の部活動を通して料理実習を実施させていただきました。 現在、中学校の家庭科の教育課程において、食育サポーターの人材活用をすすめている
-----	--

	次第ですが、現状はなかなか増えておりません。実際、学校では「家庭・地域・学校」の連携した取り組みがいろいろと実施されていることと思います。そこで、部活動・保健委員会・PTA 活動など取り組みやすいところから、中学生、高校生が自分の体と結びつけ、「朝食」、「食事づくり」をするような機会が増えるよう、委員の皆様の活動とつなげながらすすめる取り組みはできないでしょうか。 大学生による朝ごはんメニューを活用した取り組み 「伝える」というところにあるように、市内でも朝ごはんの取り組みだけでなく、全家庭配布の献立表や給食だより、「あまっこぐんぐん」といったいろいろな啓発誌があります。また、皆様の活動の中でもいろいろな情報発信をされているかと思います。そこで、にあるように、地元の大学である園田学園女子大学の学生に「子どもが作れるあさごはんメニュー」を考えていただき、それらを活用した情報発信を皆様の活動とつなげて継続的に行うことはできないでしょうか。 以上、3つの提案をさせていただきたいと思います。 資料4をご覧ください。 「市民活動の広場あまがさき」のHPより一部抜粋させていただいたものです。見ていただきますと、尼崎市には、「食べる」ことを通して、地域の人が集う場所や機会がたくさんあることが分かるかと思います。このような取り組みも参考にしながら、「朝食」を切り口に、子どもたちの楽しい食事作りにつながるようなご提案をよろしくお願いいたします。以上です。
会長	事務局から説明がありましたように、新規で施策をたちあげるということではなく、すでに今、走っている取り組みを、既存の地域資源、人材と上手につなげることで、「朝食を毎日食べるあまっ子を育てる」ことを目標とし、その具体的な取り組みとして、食習慣が自立する時期である「中学生・高校生」、その前段階である「小学生」も含めた「子どもの食事作りにつながる」よう、 全小学校内にある「こどもクラブ」を中心とした取り組み 中学校・高校における部活動等の活動を中心とした取り組み 大学生による朝ごはんメニューを活用した取り組み という3つの取り組みができないかという提案でした。 それぞれが単独で動いていくことも重要ですが、同じ方向性に向かって対応をしていかないと、なかなか全体が一定の方向へ動いていかないと思います。委員の先生方、それぞれのお立場から様々な活動をされているかと思いますが、今の事務局からの提案も含めまして、今行っている活動を発展したり工夫したりすることで、何か大きな取り組みをすすめていくことができないか、ご意見、ご提案などよろしくお願いいたします。
副会長	提案のなかで、地域の場所として、「こどもクラブ」というものがありましたが、どういう活動が中心で、その中で食というものがどう位置づけられているのか、今までの具体的な活動がありましたら教えていただけますでしょうか。
事務局	目的は先ほどの説明の、子どもたちが安心して遊べる場、異年齢の子どもたちが交流する場であるということに加え、地域の方との協働ということも柱としてあります。 「こどもクラブ」で行っている活動は個々に様々で、絵本の読み聞かせなど、地域のボランティアの方に来ていただきながら活動をされているようです。「食育サポーターの会」では、今年度、最初から「作る」という活動はハードルが高かったこともあり、野菜カードの釣りゲームやかきた、野菜の切れ端を使ったスタンプを用いたカード作りなど、いくつか依頼をいただき、42校のうち8校で行

	ったという実績があります。しかし、「食べる」ということになると、なかなかノウハウがないなかで進めていくことができないというところで、モデル的にでもつなげていけたらと考えております。
副会長	「こどもクラブ」というのは学童とはまた違うのですか。
事務局	また違います。 いわゆる児童館が元々は地域にあったものになりますが、今は各学校の校庭にあるというかたちです。
副会長	それは自由に子どもたちが参加できるようになっているのですか。
事務局	6年生までの子どもたちで、一応は登録制というかたちになっています。
副会長	わかりました、ありがとうございます。
会長	「こどもクラブ」と学校との関係性はどのようになっているのでしょうか。
事務局	「こどもクラブ」と学校とは全く関係がないそうです。
事務局	「こどもクラブ」は学校の放課後対策として実施しております。先ほどの話の中にもありましたように、昔の児童館が地域の拠点施設としてあったものを、学校の内部に移してしまおうというものです。所管も、学校は教育委員会になりますが、「こどもクラブ」はこども青少年局になっており、どちらかという厚生労働省管轄ということになるかと思います。
会長	場所だけは小学校の場所を使っているけれども、実態として、運営や中身は教育委員会ではないということですね。
事務局	先生方ではなくて、指導員という方がいらっしゃいますので、指導員のもと、様々な取組みをやっております。
会長	わかりました。 そうすると、各こどもクラブの取組みは、携わっている方の裁量に委ねられているということになるのでしょうか。
事務局	基本的にはそのようになるかと思います。
会長	読み聞かせをしようとか、宿題の手伝いをしようとか、今日はみんなで遊ぼうとか、その方々の判断ということになるのでしょうか。
事務局	そうですね。指導員は1つのこどもクラブに2名程度のようなので、全ての子に対してあまり細かくは指導できないということもありますし、何らかの流れを決めて、そこで子どもを見ているということだと思います。
会長	例えば、そのような場で食育活動しようという場合は、指導員の方をお願いするというよりはむしろ、専門家やボランティア活動をしている団体がそこに出向いて、了解のもとに取組みを行うというイメージになるのでしょうか。
事務局	実際に実施するとなれば、こどもクラブの了解はいただかないといけません。また、先ほど申し上げましたように、予算を持ち合わせていないことになりますので、食材の提供等いわゆるボランティア的なアシストをしないと、実現は難しいかなと思います。
会長	他、先生方から何かご質問等ございませんでしょうか。
委員	10月に100周年ということを先ほどお聞きしましたが、その100周年に向けて何か食育の計画などはあるのでしょうか
事務局	100周年のイベントに向けて予算をつけて行うイベントでは、先ほども言いましたように財政的に厳しいなかでありますので、食育だけに特化したものはありません。ただ、やはり朝ごはんを食べないということが生活リズムの乱れや活動量の低下につながり、そこから少しずつデータも悪くな

	っていきますので、社会背景もあると思いますが、やはり次の100年、次世代を見据えて今の子どもたちを考えていくときに、きちんと立ち上げていこうと考えているところではあります。
会長	10月のイベントなどでは特にそのようなイベントはないということですね。
委員	今年の5月8日に、ヘルスアップ戦略事業のイベントの1つとして、テーマ「ずっと元気でいられるまちづくりをめざして」講演があったうえで、リレートークで子どもの頃からの生活習慣病予防ということでいくつか頼んでいるものはあります。映画でも「千年の一滴 だし しょうゆ」という、50分程度のフランスで人気になった映画があり、そういうものを上映するなどの案もあります。 これも尼崎の事業のひとつなので、そういった取組みをしてくださっているのかなとは思っています。
事務局	ヘルスアップ戦略事業の中でもいろいろな部会があり、そのように全体をとらえてする企画、生活習慣病の予防として、イベントで一緒に行える部分、同じ方向を向いている部分もありますので、重なってくることもあると思います。
委員	そういうことも市のほうでしていただいているということですね。
事務局	少し補足をさせていただきます。 先ほど課長が申しましたように、一旦は食育に関するイベントを立ち上げていこうという話もありました。しかし、いろいろな経緯のなかで流れてしまいました。 皆様がよくご存知の通り、尼崎市というのは全国的にも数少ない、中学校で給食を実施していない市の1つです。私どもが子どもの栄養価を考えるなかで、現在中学校弁当というかたちで栄養価の高い弁当を希望者に提供しております。ところが実際は、中学生になると、やはり菓子パン等に流れてしまうことがあり、弁当という栄養価の高いものを出してはいても、なかなか子どもたちに食べていただけないという状況があります。そのような状況を受けて、市としても、PTAの皆様方とお話をし、一度、中学校給食について検討していこうという方向で昨年度から検討が開始されています。これは食育の1つの大きな転換点ではあるのかなと考えています。
会長	やはり、個々の活動がきちんと動いているということは間違いなようです。ただし、それがひとつの線になっていないということが現状なのかもしれません。様々な団体の代表である委員の先生方に集まっていたいただいているなかで、それぞれがどんな動きをしているのかという理解が十分に得られないと、なかなか有機的なかたちにはならないと思いました。 本日はなかなかそのあたりを細かく説明するというわけにはいかないと思いますが、次の機会等にお互いの動きがどうなっているのか、それぞれの理解がすすむようなことを行うとまたひとつ、先に進めるのかなと思います。 こどもクラブを中心とした取組みということで話がありましたが、それぞれの団体、例えば、農業委員会やPTA連合会、あるいは消費者協会の先生方から、対応した取組み、今まで取組んでいたこと等がありますでしょうか。
委員	1回目の時、欠席しましたが、農業委員会から出ております、西村昌浩でございます。よろしくお願いします。 農業委員会で何をしているかということですが、10月の農業祭のときには昨年、一昨年くらいから1つのブースをとって食育のかた等をやり始めています。スタートしたきっかけは、農業委員会で主催している農業祭に食育のブースを作ってはどうかという意見がこの食育会議で出たことだったかと思います。 次に、「こどもクラブ」との関わりですが、私自身も学校でスポーツクラブ21、スポーツ関係の仕事をさせていただいています。そこで、スポーツには関係ないことだけでも、夏にはスイカ割りを

	したり、先日も餅つきをしたりしています。そのようなイベントに「こどもクラブ」の子どもたちは必ず来てくれます。先ほど先生方がお話されたように、何か新しいイベントや組織を次から次に作っていくのではなく、今ある組織を連携させていく、スポーツクラブであってもスポーツだけではなく、何か地域の子どもたちと関わることをしようという施策を出していく方が効率が良いのではないかと思います。 「こどもクラブ」の子どもたちは学校のなかでの活動になるので、一般の子どもたちよりはるかに学校に長い時間います。またそこに関わる指導員の方も、校長先生や教頭先生の OB の方等が入っておられると思うので、学校との関わりという面においても、うまくやればやっていけるのではないかなと思います。以上です
会長	PTA 連合会は何か関わり等、持っておられますか。
委員	連合会として、これを統一してやろうということは実際ありません。ただし、各学校単位でやろうとしていることはあります。例えば、私が所属している長洲小学校では、「こどもクラブ」と共同して、先ほど話に出ましたが、餅つきに参画するというかたちで、今ある既存の団体と一緒にやっていながら盛り上げていく方向で今行っています。もう一点、やったことがあるのは、学年活動という各学年で活動することができる場で、ある学年で、食育として、「作る」ということをやりました。しかし、食中毒の予防や、作り方の指導等、いろいろ壁、問題点がありました。そういうことから、既に調理されているものを組み立てるという方法であれば食中毒にならないだろうということで一度やったことはありますが、実際はどきどきしながらやったというのが現状です。 なかなか統一したことをするということはできないですが、各学校でこういった取組みをしている等といった報告を連合会ですることはできますので、そういった食育の取組みを広げていくことは可能かと思っております。
会長	ありがとうございます。 消費者協会の方ではいかがでしょうか。
委員	前回の会でも申し上げたと思いますが、消費者協会では、「お米を食べよう」という活動をしています。パンとか、他の主食を食べることもあるかと思いますが、まずは日本人の主食、自給率 100%というお米を食べようということで、親子で参加していただく「お米料理クッキング」を今月 23 日(土曜日)にも行う予定です。また、年に 1 回だけではありますが、防災の時の食事の作り方という料理教室もやっており、そのようなかたちで啓発をしております。
委員	その教室では地元のお米を使っているのですか。
委員	もちろん地元のものを使っています。 やっぱり日本人ですからお米を食べないといけません。よく神戸大学の先生(保田茂先生)が、「あなたは何人ですか？パンを食べていたらフランス人ですよ。日本人であればお米を食べています。」とおっしゃっています。 少し思った点ですが、学校での朝礼等の時に、教室で、「朝ごはん食べてきましたか？」という一声をかけていただいたら、また子どもたちの意識も少しは変わるのではないのでしょうか。
委員	そうですね、学校のほうでもそういったことは行っているかと思います。
委員	もうそういったことはしておられるのですね。私自身はもう小さい子どもが家におりませんので、そういったことを聞く機会が今はなかなかありません。パンでもその他のもので、何でもいいですが、私はお米を食べてもらったほうが、腹持ちもいいし、日本人としていいのかなと思います。学校給食にも米飯給食を取り入れていただくように運動をして、今では随分米飯が提供されるようになってきておりよかったなと思っています。

	「お米料理クッキング」は、お父さんと来てもらってもお母さんと来てもらってもいいです。あまり小さい子はちょっと困りますが、小学校の高学年であれば構いません。 子どもたちに向けての取組みとしてはこのようなイベントをしています。
会長	朝食を切り口にしたイベントや取組みはいかがですか。
委員	今後、朝食の作り方とか、簡単にできるようなものをやってみてもいいかなと思っています。
会長	ありがとうございます。 2 つ目として、中学生・高校生を対象にした取組みについて、事務局の方から提案がありました。先ほど、医師会の中川先生からは、子どもの頃からの生活習慣病の予防ということで普及啓発をしているということでしたが、歯科医師会の阿部先生からは何かございますか？
委員	第 1 回目の時欠席しておりました、阿部と申します。よろしくお願いいたします。 歯科医師会ではまず、食べることは歯を使って噛むことが大事になるので、食育については非常に大事なことだと考えています。 歯科医師会としては年に 2 回、大きなイベントがあります。6 月の虫歯予防デーと、11 月のいい歯の日のイベントです。市民の方に向けて、無料健診等のイベントを行っています。そのなかで食育ブースというものを設けて、おそらくこの食育の会議が始まった時からだと思いますが、食育サポーターや在宅栄養士会の方にボランティアで来ていただいています。その他、いろいろな方に手伝っていただいて、食育かるたや、噛むことの重要性をお知らせするためにガムをお子様が噛んで自分が噛む力がどれくらいか調べるというイベントも行っています。食育かるたに関してはいつも人気で、子どもたちみんなが群がってやるような感じになっています。そのなかで、「これ持ってる」、「学校でもやってる」という声も聞こえ、食育かるたが普及しているなと感じます。 朝食に特化したイベントや取組みは特にはありません。個人的なことですが、私自身、1 歳と 3 歳の子どもの母親です。どちらかというのだめな母親です。朝ごはんもなかなか駄々をこねて食べなかったり、簡単なものになってしまったりするので、逆にどうすれば食べさせられるのかアドバイスをいただきたいと思っています。
会長	ありがとうございます。 中学校に対する取組みについて、市、教育委員会の学校教育課では何か具体的な取組み、あるいはこれからやろうと考えているようなことはあるのでしょうか。
拡大事務局	中学校について、学校教育課としては、特に今年度はこれをしましようにといったことはありません。ただ、小学校でも中学校でも、食に関する指導の年間計画や食に関する指導の全体計画というものがあります。それぞれの学校、例えば家庭科の時間や保健体育の時間だけではなく、学校の教育活動のあらゆる領域と関連づけたうえで、各学校の食育の目的、体験を作って実習しているという状況になっております。
会長	そのような取組みは主にどの先生が、家庭科の先生、養護教諭の先生、あるいは栄養教諭の先生等、どのような先生が中心でなされているのですか。
拡大事務局	今おっしゃっていただいたような先生方が中心になっています。 尼崎市の場合、中学校では学校給食をしておりません。小学校には栄養職員や栄養教諭がおりますので、そのような先生方を中心として各学級担任の先生方も関わりながら実施しております。中学校につきましては、家庭科教諭、養護教諭が中心で活動しております。
会長	ありがとうございます。 次に 3 つ目の提案です。大学生による朝ごはんメニューの啓発ということですが、実際に取組まれておられる三浦先生から何かありますでしょうか。

副会長	全くこれからやっていくといった状況です。 いろいろな献立を考えることは授業の中でもあります。さらに「できるだけ簡単に」、「子どもでも作れる」などいろいろな条件のなかで学生に考えてもらうということは非常に勉強にもなると考えています。また、考えた献立を実際に配布物のなかで採用していただくことが可能となれば、非常に有意義であり、さらにそれが子どもたちの食生活に貢献することへつながるとすれば、学生にとっても非常にうれしいことと思います。
会長	佐藤先生のところでは、お店でレシピ等の提案をされているかと思います。今回、市は朝食ということのひとつポイントとしてあげていますが、現状、例えば朝食に向けたようなレシピを提案している等、何か具体的なものはありますか。
委員	そうですね、取組みの展開が「朝食を毎日食べるあまっ子」ということですので、活動の場の提供としては、お店にももちろんたくさんありますが、塚口事務所、また、みなさんに活動していただいている場としてカルチャーがあります。そちらのほうでも昨年、2015 年度になりますが、朝食の大切さを課題に含めた年 4 回程度の講座を行っております。 他には、どうしても小学生を対象としたものになりますが、親子が一緒に参加する料理教室はけっこうな機会を設けております。中学生、高校生を対象にしたものはなかなか難しいですね。一度チャレンジしてみることはいいのかなと思っています。ただ、やはり小学生のときにそのような機会を与える、経験をしていただくということは、子どもたちが中学、高校、大学へとあがっていくときに生きてくると思います。
会長	各先生方からのお話を伺っておりますと、やはり、先ほどの話と繰り返しになりますが、個々では一生懸命それぞれの立場で動いているということはほぼ間違いないかと思います。ただ、お互いの情報が十分分らないところで、有機的につながっていないようなところが見受けられるような状況ではないでしょうか。 今回、事務局から提案があったように、「子どもたち自身が料理をする場、機会を増やす」ことで、最終的に「朝食を毎日食べる子どもたちが増える」ために、具体的に取組みを考えるうえで、今、各先生方からのお話にあがったことを、情報提供も含めて、一括で管理、管理という言い方は良くないかもしれませんが、一つのところで、例えば一つのホームページで、尼崎市全体ではこんなことをやっている等の情報を流すことや、尼崎市食育推進〇〇シリーズの第 1 弾、第 2 弾等、全部一本の線でつながっているというようなところを市民の方々にきっちり見せることができる、ただしそれぞれの団体のお立場もありますので、無理にということではないですが、調整できる仕組みのようなものを作っていけると非常にいいのかなと思いました。 このことについては、今日お集まりいただいている先生方にもお諮りすべきであろうことだと思います。また、事務局にもご検討いただきたいことでもあります。ただし、なかなか先生方全員にお集まりいただくことも難しいと思いますので、例えば、行政(事務局)と懇話会のメンバーでワーキンググループのようなものを作り、提案を考えうえで各団体との調整を行い、取組みをつなげていくということも必要なことではないかと感じましたがいかがでしょうか。
事務局	いろいろな情報を一括するということですが、第 2 次食育推進計画を立てる際にいただいたパブリックコメントのなかでも、「食育に関していろいろなどところでやっているし、食育は大事だから、やっていることを発信し、わかるようにしてほしい」というご意見はありました。ただし、食育に関する活動も非常に多岐にわたっていますので、そのなかでどのような情報発信をしていくのかと考えると、今、ねらいとしている「朝食」を切り口にして情報を発信していくという取組みは可能なのかなと考えています。今後整理していきたいと思います。

ワーキンググループにつきましては、一度、集まっていたのか、ワーキングするとしてもどのようなかたちで行っていくのかというところを考えていかなければならないと思います。会長の話にもありましたように、全員で、いろいろな立場の方から、いろいろなご意見を、ということもありますが、取組みの柱を「朝食」としてとらえ、軸をしっかりさせたうえで何をどのようにワーキングしていくのかという点を考えていく必要があるかと思います。ですので、ワーキンググループについて今すぐここであるということではないですが、今後、実際にそうなったときに皆様でまたご協力いただけるということであればお声かけさせていただきたいと思います。

もう一点、今回、前回の会議でもお話しておりますが、「朝食」ということをねらいにした背景のなかには、先ほど朝礼のときに朝ごはんを食べてきた人を聞いてみてはどうかという意見もありましたが、学校側としては、食育に対していろいろがんばって取組んではいるものの、「朝ごはんを食べる」ことは家庭の問題であり、なかなか食べてこない子ども、家庭に対して食べてくるようにとは言えるけれども、具体的な解決に持っていくことはいろいろな家庭環境があるなかでなかなか難しいというご意見もありました。

このようなことから考えますと、資料2の にあるように、成人期における朝食の欠食、特に「30 歳代男性の 27%が朝ごはんを食べない習慣」という結果から、子育て世代の親たちに着目すると、朝ごはんを食べる習慣というものの自体をなかなか子どもたちに見せていない、朝ごはんを食べることが大事という考えにつながっていないということが言えると思います。親を変えていくということももちろん大事ではありますが、そこはなかなか難しい現状もあります。でもやはり、そのような環境をある程度変えていかないといけないということは変わりありません。昔、子どもの食事は家庭の役割という考えであったと思いますが、今後は社会全体、地域全体で子どもが食事を作ったり選択したりすることを支えていかなければいけない、家庭の中だけではなく地域全体で支えていかなければいけないということが国の考え方の 1 つでもあります。それは同様に尼崎の課題でもあると考えています。家庭だけに問いかけて解決できる問題ではないため、少しでもいろいろな体験ができるような活動の場を広げていく必要があります。今までであれば、家庭の中で食事を親が作っている、また、お米、ご飯を炊くということを昔は小学生でも行っていた家庭も多かったけれども、今はなかなかそういう経験や環境がないということもあります。少しでもそのような機会、場を広げていくということが必要ではないかという背景があって、今ここで課題として取り上げています。

また第 2 次食育推進計画のアンケート結果にもありますが、1 次計画の評価をした際に、次の世代に食育について伝えたいと思う内容が、5 年前に比べ、全ての項目、「食前食後の挨拶」、朝ごはんを食べるなどの「規則正しい食生活リズム」、「食事に対するマナーの問題」など、伝えたいと思う割合が低くなっているという現状がありました。これは幼児の保護者にアンケートをとった結果です。食事のマナーや食生活リズム、朝ごはんを食べることが大事であるということを伝えたいと思う親がいなかったら、その環境のなかで育っている子どもには当然伝わらないという状況になります。尼崎の次の 100 年に向けて、「家庭」だけでなく、「地域」で育んでいくことが、これから人口も減っていくなかで、しっかりと働く、自立する次世代を育てていくための課題であるのかと考えています。

今回は、朝ごはんを切り口にして、連携しながら取組んでいきたいと考えています。そのために、いろいろな機関と連携をとりながら、子どもたちに先ほど述べたような様々な経験をさせてあげられる機会や場所をどんどん作って、それを子どもたちの自信、選択する力につなげていきたいと考えております。

	「朝食」ということを柱立てて、何をみえるようにしていくかという情報の部分と、どのように組み立てて作り上げていくかというワーキングの部分をもう一度整理させていただきたいと思います。ただ、情報の部分につきましては、園田学園女子大学様の協力も得られそうです。これもまたパブリックコメントであがったものですが、「食育の取組みについて学校によって取組みが違う、同じ取組みをしてもらえないのか」という意見がありました。実際、それほど大きな差、でこぼこな違いはないのかもしれませんが、市民の意見とすれば、学校によって取組みが違うので発信の方法、一律に同じものを出してもらえないだろうかということだと思います。そこで、今回 にあげている取組みになります。もし学校や保育所側が配布物のなかにスペースをいれていただければ、同じ情報を発信し続けることをモデル的にやってみたいと考え、もちろん協力を得ながらのかたちにはなりますが、取り組みそうかなと考えています。
会長	わりと大きいスパンでみるものと、比較的手前でみるものということも少し考慮しながらどのような取組みができるか考えないといけないのかなと思います。 例えば、朝食の欠食率が下がった場合、「保健室を利用する子どもの割合が減ってくる」、学力検査をやったときに「尼崎市の成績がすごくあがる」、「体力があがる」等、見えるかたちで結果、効果が出てくると、食育を仕掛ける側としても非常に士気が上がりますし、それがそのまま子どもたちをプラスの方向に進め、市の活性化、健康の増進につながっていくということになるかと思えますので、そのような方向に進んでいけたらと思います。 貴重なご意見をありがとうございました。

議題2 食育フォーラムについて

事務局	資料5平成 27 年度食育フォーラム(案)をご覧ください。 これまで議論してまいりました、課題解決や社会的な背景、取組みのねらいなどを踏まえ、3月5日(土曜日)に食育フォーラムを実施したいと考えております。テーマを、「食べることは生きること、子どもの気づき・やる気・学びにつながる食育を目指して」とし、講演会には九州大学の人気授業、「自炊塾」からのメッセージということで比良松先生にお越しいただきます。比良松先生は、共同の子育てということで「弁当の日」を実際に大学で講義されており、先生自身も学童ホームで「弁当の日」として、子どもたちが「作る」ということからいろいろな食の大切さを学ぶという取組みをされています。尼崎市の食育を推進するにあたって、必要なものや先ほどから皆様で議論している、中高生に絞ったときにどのようなことを考えていけばよいのか、やはり幼児期から自立的に自発的に活動をすすめていくためにはどのように地域で育てていったらよいのか、最終的には、健康は誰のために、という大きなテーマで紐解いていただきながら私たち皆で尼崎市の食育、あまっ子の生きる力、地域でできることはなにかということを共有できたらと考えております。 パネルディスカッションでは、先生の話を活かしながら、私たちの尼崎市での取組みの実践事例として事例紹介、意見交換ができればと考えております。 さらに、食育のコーナーでは、実際に「選ぶ」、「作る」ということを子どもたちが体験できるコーナーとして、園田学園女子大学にもご協力いただきまして、SAT システム、実物大のフードモデルを用いて食事を選びながらバランス良く食べることができているか、どうして朝食が大切なのかということを学生にお話も入れていただきながら体験していただくことを考えております。また、「子どもクッキング」として、簡単にできる朝ごはん、お味噌汁やご飯を炊いておにぎり程度になるかもしれませんが、子どもたちだけでできる「子どもクッキング」も実施したいと考えており
-----	--

	ます。 パネルディスカッションについては、現在まだパネリストの方を調整中ですが、ぜひ懇話会の皆様と協働で取組んだ、小・中・高校生を対象に実施した実践事例の紹介をしていただけたらと思うのですがいかがでしょうか。 そこで、資料7をご覧ください。資料7には、平成 27 年度、ひょうご食育月間で取組んだことをあげております。そのなかで、皆様と協働で取組むことができたことにおきましては、どのような団体とコラボができたかということも資料としてつけております。特に、No.4「地域の特色を活かした食育推進事業の研究発表会」ということで、県の事業ではありますが、尼崎市立成文小学校が行った発表や、No.5「中学校・大学の食育の連携授業」として園田学園女子大学と啓明中学校が連携した取組み他、ここにあげていないもの、その他のものでも、小・中・高校生を対象に実施した実践例をパネルディスカッションの中でご紹介いただければと考えておりますので、ぜひ委員の皆様を通じてご協力いただきたいと考えております。 また、食育フォーラムにつきましては皆様の参加及び PR をお願いしたいと考えておりますので、ご協力よろしくお願いします。以上です
会長	PR については、中根先生や前田先生のところを通じてチラシとかを配布いただくということでよろしいですね。 今の事務局からの説明に対してご質問等はございませんでしょうか。 この 3 月のフォーラムは次年度の取組みのステップになればと考えております。また、この取組みでいろいろなアンケート等とることができれば、新たな意見もいただけるのではないかなと思います。 この他に何か、事務局から追加、説明等ありますでしょうか。

議題3 その他

事務局	その他のところでひとつ、事務局側からお願いがあります。 資料6をご覧ください。 第 2 次尼崎市食育推進計画の評価指標をのせております。計画を効果的に推進するため、事業の達成状況や成果をはかるために設定した評価項目です。基本理念や目標に基づいて 13 項目設定しております。平成 26 年度、1 次計画を評価し、2 次計画を策定するということで、実態を把握しております。最終年度である平成 32 年度の目標達成に向けて、それぞれが取組むところではあります。また、先ほどから議論いただいておりますように、何を優先的にということでは、例えば「朝食を毎日食べている子どもの割合の増加」というところを切り口に、計画の全体的な目標達成に向けてすすめていくというかたちです。右端の備考欄には、どのような方法で実態を把握するかを記載しておりますが、毎年度、継続的に把握することがなかなか難しい状況です。例えば、評価指標「朝食を毎日食べている子どもの割合」の小・中学生は全国学力学習状況調査で、「肥満度 20% 以上の子どもの割合の減少」、「年に 1 回特定健診を受けた人の割合の増加」、「60 歳で 24 本以上自分の歯を有する人の割合の増加」といった項目については毎年度、実績報告で定期的の実態を把握することができるのですが、その他の項目については毎年度同じようにアンケート調査を実施することができません。全ての項目をということではなく、例えば、優先的に取組む「朝食を毎日食べている子どもの割合」につきまして、現在、幼児については把握することができませんので、委員として参加していただいております幼稚園、保育所におかれてはそれぞれの取組みのなかでアンケートをとっていただくなど、実態を把握することにご協力をお願いしたいと思っております。
-----	---

会長	目標とする年度に対して、経時的にどのように変化していくかということがわからなければ、途中で取組みを修正したり、切り口を変えて何かをしたりするということも、数字がないとどうしようもないところがありますので、関連の団体の先生方におかれましては、調査やご協力をいただけると、この会議のなかでも客観的な状況が分かってくると思いますのでご協力をお願いできればと思っております。 他、先生方からご質問等ございませんでしょうか。
委員	一点わからないところを教えていただきたいのですが、資料6にある郷土料理、尼崎の郷土料理とは何でしょうか。
会長	尼崎の郷土料理というものは何があるのでしょうか。
事務局	尼崎にはいろいろな地方の出身の人が住んでいます。郷土料理とは、尼崎の郷土料理というよりも、親御さんに伝わってきている郷土料理も全て含めて郷土料理と捉えるということになっています。例えば、尼崎だから尼イモを使ったものとかではなく、もちろんそれもありますが、郷土料理そのものは、親から伝える食事という、広く捉えた意味になっています。
委員	新たに郷土料理を発掘してという意味ではないのですね。 私自身も生まれて 60 年以上、郷土料理は何やと言われたら何かなと思うところがありますね。
事務局	例えば、正月のお雑煮のお餅にしても家庭によってそれぞれ違いますね。
委員	評価項目のなかに入っているので、ここを目標にしないといけないかもしれませんが、郷土料理とまで言わなくても、地場産物ということでもいいのかと思います。
委員	尼崎には沖縄の人が多いいいますね。そうすると家庭での料理、昔から食べてきているものも全然違ってきますよね。
委員	尼崎にはどこの県民の方が多いですか。
事務局	基本的には今あがったような、沖縄や鹿児島など南九州の方もけっこういらっしゃるかと思います。
委員	そうすれば、出身地の郷土料理という意味で捉えていったほうがいいですか。
事務局	そうですね。 郷土料理を食べることが目的というわけではなく、世代を超えて伝わってきている、思い入れがある食が伝わっているかという意味合いです。ですので、食べるものは尼崎のものだけでなくよく、食を伝えることを大事にしているかということになるので、そこはどの地域のものでもよいかと思います。
会長	食の伝承ということですね。
委員	食の伝承ということであれば、尼崎には、尼いもや田能の里芋、一寸豆など、昔からあるものもありますので、そういうものを知らせるほうがいいんじゃないでしょうか。
事務局	そういうものを知らせるイベントもいろいろやっています。農業祭とかもそのひとつですね。
委員	農業祭では一寸豆はあまり見たことがないかもしれません。時期が違うからですね。
委員	小学校では尼いもを作って、育てて、調理するということはしています。
委員	尼いもって細いものですね。
委員	細いものもありますし、けっこう立派なものもなることがあります。
委員	どのように調理されるのですか。長年尼崎に住んでいてもあまりわからないですね。
委員	焼き芋、ふかし芋、スイートポテトなど何にするかはその年、その時によって違っていたり、学

	校によっても違ってきます。もちろん全ての学校が取組んでいるわけではありません。そういった意味では、パブリックコメントにあったように、全ての小学校でということではできていない現状はあります。市内の小学校、中学校全てが一律にということは、実際なかなか難しいのかなと思います。
会長	保育所とかではこういう取組みは何かあるのでしょうか。
委員	特に尼崎のものを活用してということはないのですが、尼崎のもの、例えば尼いも等、そういう食材があるということを子どもに伝えることはしています。また、保育所の給食で尼崎産や兵庫県産の食材を使用した時は、各保育所で「今日の〇〇は尼崎産の〇〇を使用しています」や、「兵庫県産の〇〇を使用しています」と表示して保護者の方や子どもたちに伝えるようにしています。 今、いろいろな先生方の話を聞いていて思ったことですが、乳幼児期という時期はなかなか自分で「作る」ということをできる時期ではありませんので、保育所でもクッキングに取り組むようにしています。ただ朝ごはんに特化したところだと考えると、やはり、「食べてこない子」はいます。それは保護者の方が食べさせていないというだけでなく、阿部先生も先ほどお話をされましたが、「食べてくれないんです」という保護者の方もいらっしゃいます。年代別のライフステージでいくと、乳幼児期の保護者となる方は青年期にあたるかと思います。この時期は保護者にとって、子育ても含めてすごく多忙な時期になっています。また、仕事の形態もすごく多様化しており、朝早くから夜遅い時間まで保護者の方も働いています。各家庭によって、就労の形態は違い、朝ごはんを食べさせる時間の余裕がどの程度あるのか、保護者の方が本当に忙しいということを感じています。欠食率が上がると結果が出ているこの時期に、子育てをしていくなかで、保護者の方が自分の食べる姿を見せながら子どもにも食べさせるということがすごく難しい時代に入ってきているのではないかなと思います。子育て全体で考えても、10年前の子育てと今の子育て、社会背景が変わってくるなかで全く違ってきています。食育も、時代が変わってきているということを頭置きながら取組みをしていかないと、今の子どもや保護者にマッチしない取組みになっていくのではないかなと感じています。 郷土料理のことも話に出ましたが、郷土料理や地元の特産物というものもそうですが、そもそも、おふくろの味自体がいったい何なのかという時代に入ってきていると思います。レトルト食品や完成された惣菜、それが子どもにとって今の時代、非常においしくなっています。そのような環境のなかで、故郷の味というよりも家庭の味をどのように伝えていくのか、そこがすごく大事になってきているのではないかなと思います。我が家の卵焼きの味はどんな味なのか、我が家のお味噌汁はどんなものだったのか、お雑煮はどんなものだったのか、保育所に通っている子どもたちのなかには、お雑煮をお正月に食べていないと話す子ども、お餅やおせち料理を食べてないと話す子どももいるのが現状です。母親、おふくろに限っているわけではなく、お父さんの味でもいいので、我が家の味をいかに次世代に残していくのかということが大事ではないかなということを感じています。
会長	ありがとうございました。 今日、たくさんご意見をいただきました。他の先生方、追加等ございませんでしょうか。 では、事務局の方から追加等ございませんでしょうか。
事務局	最後に、確認と整理をさせていただきます。 今日は3つの提案をさせていただきました。 まずは動いていかなければいけないということで、「朝食」について、「こどもクラブ」との

	連携を提案させていただきました。その連携を軸として、いろいろな関係下でどのような取り組みができるかという方向で整理していこうと考えています。 の家庭、地域、学校の連携というところはなかなか一体的に連携していくということが中学、高校では難しい部分があります。家庭科の実習に入らせていただいた経験もありますが、なかなか継続的に行うことが難しい実態もありますので、ここは一旦、どんな取り組みがあるのかというレベルで整理していきたいと考えます。 につきましては発信できる部分については動いていこうということで整理していこうと思いますが、それでよろしいでしょうか。
会長	もう一度言わせていただきます。 ：優先的にやる取り組み ：まずは状況を一旦整理する ：できることからやる ということですね。 先生方、こういう方向でよろしいでしょうか。 特に反対される先生方もいませんので、この方向でよろしいのではないかと思います。 事務局の方もよろしいですね。 それでは長時間にわたりましたが、これを持ちまして、第 2 回尼崎市食育推進懇話会を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。